

## サイエンスイングリッシュを実施しました！

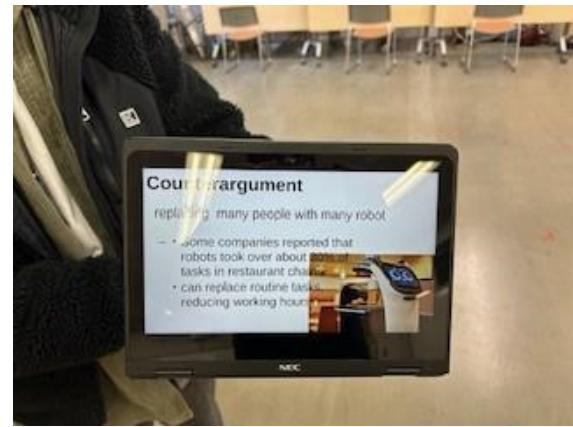
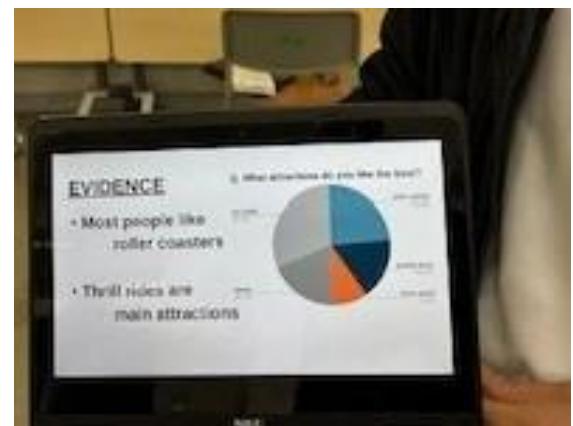
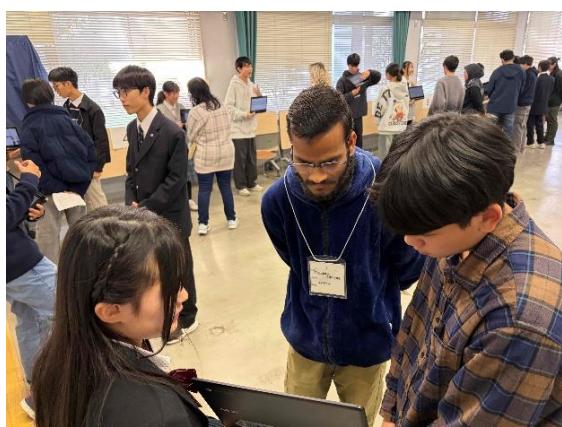
天王寺高校では、1年次の課題研究における学校設定科目「創知Ⅰ」の中で、『サイエンスイングリッシュ』を実施しています。

これは、国際性の育成のための事業として、「データサイエンス実践」での「プレ課題研究」について、英語で研究発表を行い、大阪大学の理数系留学生から指導助言を受ける取組です。(次頁:「探究」でどのような力をいかに育てるか 参照)

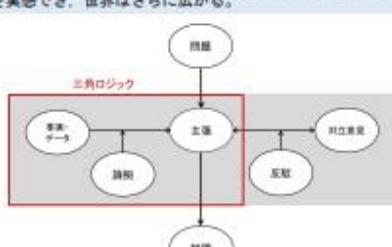
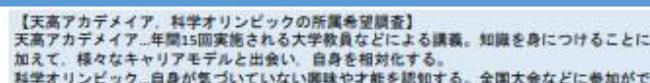
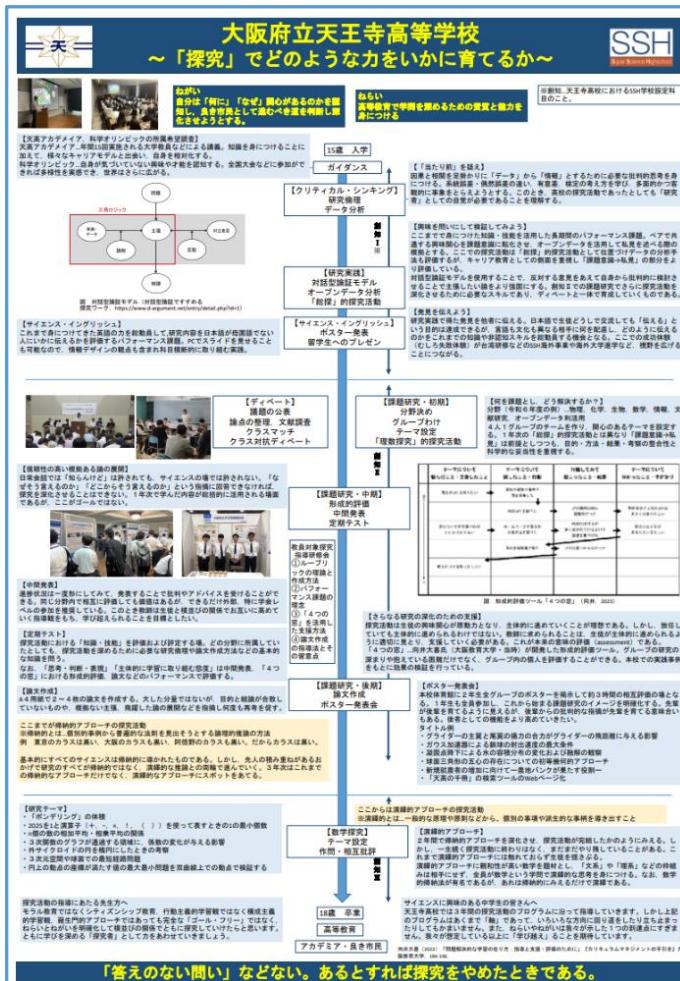
全生徒が必ず留学生に1対1で英語での発表および質疑応答の経験ができるように運営しています。

これまで身につけてきた英語の力を総動員して、研究内容を日本語が母国語でない人にはいかに伝えるかを評価するパフォーマンス課題であり、PCでスライドを見せることが可能なため、情報デザインの観点も含まれており、科目横断的に取り組む実践となっています。

今年度は、1月13日(火)、1月14日(水)に実施しました。



## 資料「探究」でどのような力をいかに育てるか



【「当たり前」を疑え】  
因果と相間を足掛かりに「データ」から「情報」とするために必要な批判的思考を身につける。評議評差・偶然誤差の違い、有意差、検定の考え方を学び、多面的かつ客観的に事象をとらえようとする。このとき、高校の探究活動であったとしても「研究テーマ」としての自覚が必要であることを理解する。

【興味を問い合わせて検証してみよう】  
ここまで身につけた知識、技能を活用した長期間のパフォーマンス課題。ペアで共通する興味関心を課題意識に転化させ、オープンデータを活用して私見を述べる際の根拠とする。ここでこの探究活動は「探求」的探究活動として位置づけデータの分析手法も評価するが、キャリア教育としての側面を重視し「課題意識→私見」の部分をより評価している。

【発見を伝えよう】  
研究実践で得た発見を他者に伝える。日本語で生徒どうしで交流しても「伝える」という目的は達成できるが、言語も文化も異なる相手に何を配慮し、どのように伝えるのかをこれまでの知識や非認知スキルを総動員する機会となる。ここでの成功体験(むしろ失敗体験)が台湾研修などのSSH海外事業や海外大学進学など、視野を広げることにつながる。

【サイエンス・イングリッシュ】これまで身につけてきた英語の力を総動員して、研究内容を日本語が母国語でない人にいかに伝えるかを評価するパフォーマンス課題。PCでスライドを見せることが可能なため、傾聴チザンの視点も含まれれば目標的に取り組む実践。